

# 呑川本流緑道サクラ再生実行計画 第二回検討会ニュースレター

目黒区内の公園・緑道・道路緑地等には約 2,300 本の桜がありますが、老齢化などにより、保全・更新の取組みが必要となっていることから、目黒区では平成 27 年度から目黒のサクラ保全事業を行っています。今年度は、呑川本流緑道のサクラの再生実行計画を作成するため、平成 30 年 11 月 2 日(金)に中根一丁目会議室において第二回検討会を開催しました。

## 桜並木の現状と課題

- ・樹勢が低下しており、何らかの措置が必要な桜は 50 本ある (21.2%) (内 5 本は伐採済み)
- ・植栽基盤の不足 (土壌が少なく乾燥しやすい)
- ・桜の老齢化
- ・腐朽菌による材の腐朽・空洞の発生



呑川本流緑道は呑川にコンクリートの蓋をし、その上に盛土をして造られた人工地盤(ビルの屋上緑化と同じ地盤で、大きな植木鉢のような構造)です。このため、土壌が固まり易く、乾燥し易い土壌となっています。また根の生育範囲も狭い状況といえます

## 今後の対応策と方向性検討

### 保全対策

土壌改良、施肥、剪定、水やり等の方法の検討

### 更新方法

- ・倒木の危険のある樹木の伐採
  - ・植替え品種の検討
- 多様な品種による持続性のある桜並木へ再生  
植栽間隔が狭いことや、土壌が浅いことを踏まえ、小型のサクラを選択すること、保水性対策などの工夫が必要。

## 提案した呑川本流緑道の将来像



ソメイヨシノと同様一斉に咲く桜で揃える案  
イメージはコシノヒガン、やや小型の品種

狭い植え込みである事から、ソメイヨシノでは生育が良くない。この範囲は、より小型の樹種にする等、他のエリアとは区別する必要がある。  
イメージは、ゴテンバザクラ、コヒガンザクラ、オカメの小型品種の案



## 第二回検討会の主な意見

- ・せっかくの桜並木なので一斉に咲いて、一斉に花びらが散るような同一品種にしてもらいたい
- ・世田谷区から目黒区側へ並木はつながっているので、バランスも考えて品種を検討してほしい。
- ・地域の人々の思いを引き継いでいけるような、安心できる維持管理の仕組みを検討したい。
- ・商店街や住区で桜の時期にイベントを開催していることを考えると、長い期間咲くプランではなく、同じ時期に咲く方がよい。
- ・地球温暖化、異常気象など環境の変化について考慮し、将来を見据えて計画する必要がある。

第2回検討会でのご意見を踏まえて、桜景観の将来像とそれにふさわしい品種について検討し、第3回検討会でご紹介します。

目黒のサクラ基金にご協力をお願いします

サクラ基金はふるさと目黒の桜のある風景を後世に伝えるための基金です。公園等の桜の保護・植替えなどに活用しています。詳しくは目黒区ホームページやふるさとチョイスホームページをご覧ください

(目黒区 HP) <http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/zaisei/kifu/kikin/sakurakikin.html>



ふるさとチョイス HP